

電動アシスト自転車

電動アシスト自転車（スポーツ車タイプ）全般用

品番	BE-ELH542	BE-ELHC539	BE-ELVS074	BE-ELZ035	BE-JELJ014
	BE-ELW075	BE-ELHC544	BE-ELVS774	BE-ELZC634	BE-JELJ034

組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくは同等の技術を有する方が組み立て・点検・整備を行ってください。
- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様で保管することをおすすめします。

※説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。また、上記記載品番を基本とする特注車(部品の一部が異なる機種)も組み立て方はすべて共通です。

お知らせ

- 本紙にはお客様納品時に組み付け調整が必要な部品についてのみ記載しております。シマノ製部品に関する詳しい取扱説明書・ディーラーマニュアルは、ウェブサイト(<http://si.shimano.com>)でご確認いただけますようお願い致します。
- 以下、自転車の仕様をご確認いただき、説明が該当しない箇所は読み飛ばしてください。

お願い

- 保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています。)
- 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
- 組み立て後、バッテリーを満充電してください。3か月以上の長期保存の場合、およびお客様に商品をお渡しする際にも、満充電をしてお渡しください。
- 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。

未組み付け及び要調整部品明細表			標準締付トルク一覧表		
チェック	部品名	個数	M3	(0.8~1.3)N・m	{{(8~13)kgf・cm}}
	ハンドルバー・ハンドルステム(位置調整が必要)	1 セット	M5	(3~4.5)N・m	{{(30~45)kgf・cm}}
	ステムキャップ(ハンドルステム用)	1	M6	(6.5~9.5)N・m	{{(65~95)kgf・cm}}
	手元スイッチ・ベル・ライト(装着車だけ)(位置調整が必要)	各 1	ハブ軸 BC5/16	(18 ~ 26)N・m	{{(180 ~ 260) kgf・cm}}
	ペダル	1 セット	ハブ軸 BC3/8	(35 ~ 43)N・m	{{(350 ~ 430) kgf・cm}}
	ワイヤ錠(装着車だけ)	1	※本文中に締付トルクの記載が無いねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。		
	後ハブ軸キャップ(J コンセプト、ペロスター)	1 セット			
	六角棒レンチ(装着車だけ)	1 セット			
	リヤリフレクター(EZ)	1			

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。
---	--------------	---	------------------

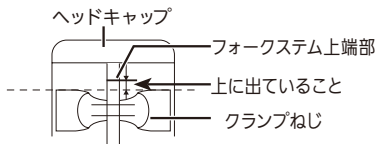
 **警告**

けがなどを防ぐために

 禁止

■はめ合わせ限界標識が見えるまで上げない
(シートポストが折れて転倒によるけがのおそれ)

■フロントフォークステム上端部を上側のクランプねじ(下図の点線位置)より下げない



ヘッドキャップ
フォークステム上端部
上に出ていること
クランプねじ

(フロントフォークステムが折れて転倒によるけがのおそれ)

 必ず守る

■ハンドルバー固定部は必ず増し締めを行い確実に固定する
(ハンドルバーがぐらつき転倒によるけがのおそれ)

■ロックナットは確実に締め付ける
(ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

■サドル上面を水平に組み付ける
(サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)

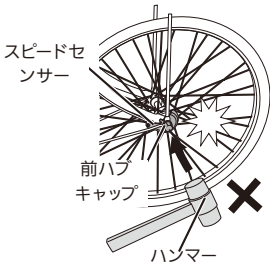
■注油禁止場所(リムやブレーキブロックのゴム部など)に注油しない
(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)

 **注意**

故障などを防ぐために

 禁止

■前ハブキャップを組み付ける際、ハンマーなどで強く叩き過ぎない
(スピードセンサーが故障するおそれ)



スピードセンサー
前ハブキャップ
ハンマー

 必ず守る

■六角棒レンチは六角穴付きボルトの奥まで確実に差し込み、締め付けを行う
(はずれてけがをするおそれ)

 必ず守る

■インナーワイヤの先端には、必ずインナーワイヤキャップを組み付ける
(組み付けないとけがのおそれ)

■ヒゲ状のバリを取り除く
(バリによるけがのおそれ)

⇒ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。

組立方法

■ペダルの組み付け ※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

①クランク(右側)にペダル(右側)のシャフトを時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。

②クランク(左側)にペダル(左側)のシャフトを反時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。

裏面へ続く

■ハンドルバーの調整と固定

＜シングルクランプの場合＞

○ハンドルステムは、はめ合わせ限界標識が見えない位置まで挿入し、クランプボルトを適正トルクで締め付けてください。

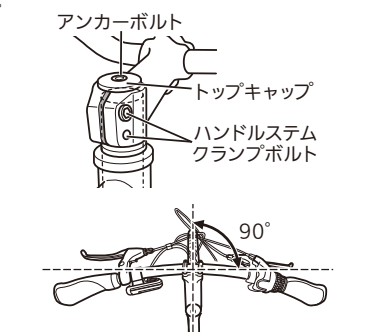


お願い

●さび付きによる固着を防止するためハンドルステムの挿入部には薄くグリスを塗ってください。

＜ダブルクランプの場合＞

①図のようにハンドルステムクランプボルトを緩めます。

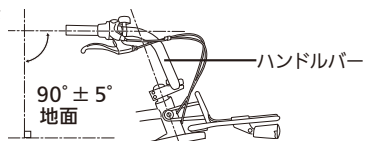


②ハンドルバーと前車輪が直角になるように調整し、六角棒レンチで六角穴付きボルトを締め付けます。

ハンドルステムクランプボルト ステムにトルクの記載がある場合は記載のトルクに従う	M5 締付トルク (6.0)N・m {(60) kgf・cm}	M7 締付トルク (18~21)N・m {(180~210) kgf・cm}
---	---------------------------------	--

＜BP02の場合だけ＞

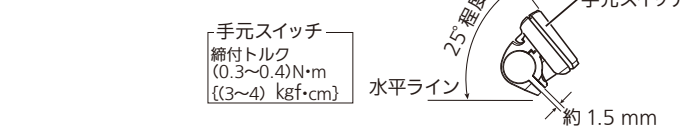
ハンドルバーが地面に対して水平になるように調整します。



- ③ヘッド小物のがたつき・回転が重いときは、ハンドルステムクランプボルトをゆるめてからアンカーボルトで調整してください。
- ④ヘッドの回転が適正になったら、元通りハンドルステムクランプボルトを締め付けてください。
- ⑤締め付け後、以下の方法で固定が十分か確認します。前車輪を両足ではさみ、両手で握り部を強く左右に回して(150 N{15 kgf・cm})、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認してください。
- ⑥ハンドルの調整、固定後ブレーキレバーを握ってブレーキが利くことを確認してください。

■手元スイッチの角度調整

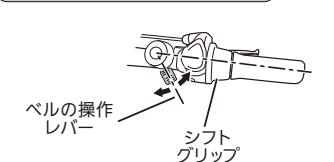
○手元スイッチは図のように起こし、適正な角度で締め付けを行ってください。



ご注意
●締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。

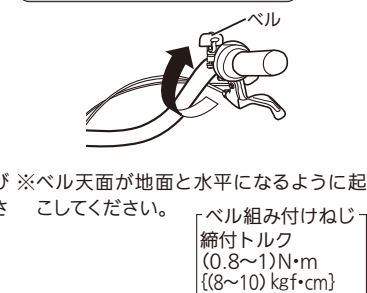
■ベルの位置調整・確認

＜チビマルベルの場合＞



※ベルの操作レバーがシフトグリップおよび他の部品に接触しないようにしてください。

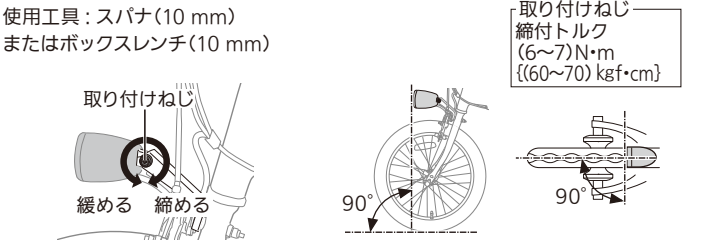
＜打式ベルの場合＞



■バッテリーライトの角度調整

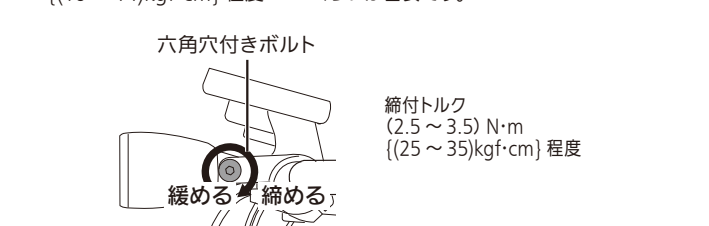
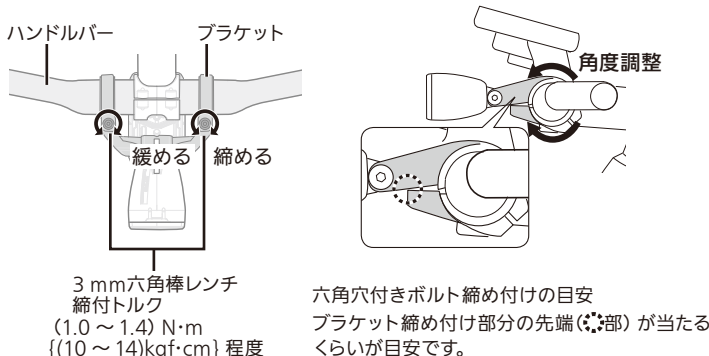
フロントリフレクター反射面を地面に対して垂直になるように調整をすると、ライト照射角度も適正になります。

使用工具：スパナ(10 mm)
またはボックスレンチ(10 mm)



＜ブラケット固定の場合＞

＜ハンドル部を下から見た図＞



※締め付け後、以下の項目を確認してください。

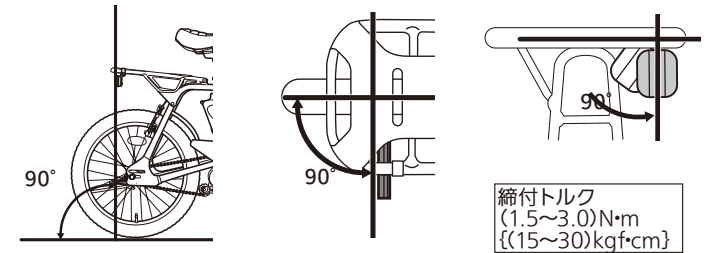
- 点灯するか？
- 取り付け角度は適切か？
- 反射面が地面および前車輪に対して直角になっているか？
- 割れやがたつき、汚れは無いか？
- コードにたるみ・断線・損傷は無いか？
- ブラケットがハンドルバーに確実に固定しているか？
- ワイヤなどにより光を妨げないか？

■リヤリフレクターの調整

＜EZの場合＞

○リヤリフレクターの向きと角度を調整してください。

このとき反射面が地面および後車輪に対して直角になるよう、ご注意ください。



■ブレーキの調整

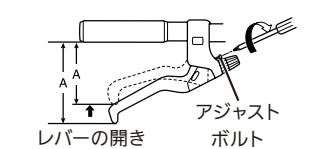
●ブレーキレバーの開き調整

○ブレーキレバーの開き調整は、ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回して、操作しやすい位置(ブレーキレバーの引き始めに指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する。

●ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は遊びを少なくして再調整してください。

お知らせ

●レバー開き調整ねじの無い機種もあります。



●ブレーキレバーの引きしろ調整

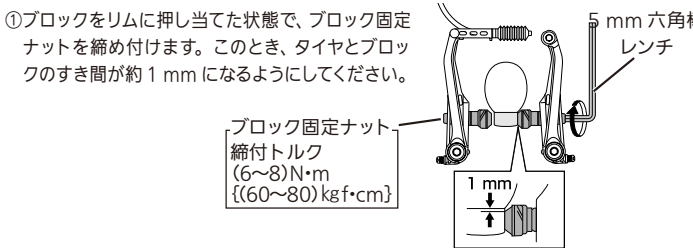
ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをワイヤ調整ねじで調整する。

お願い

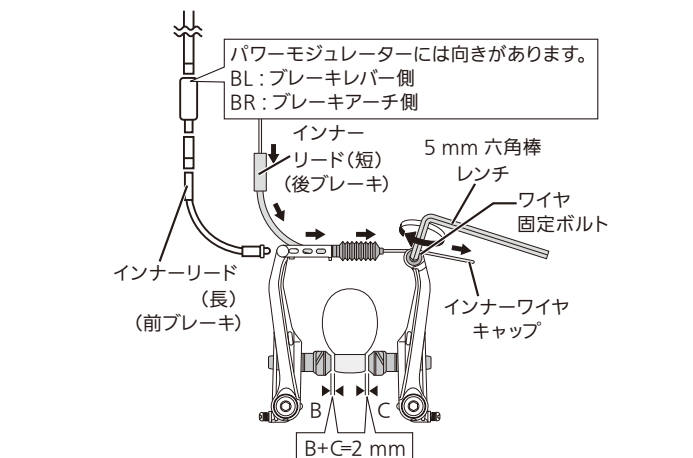
●上記の調整範囲は目安です。●前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

＜Vブレーキの場合＞

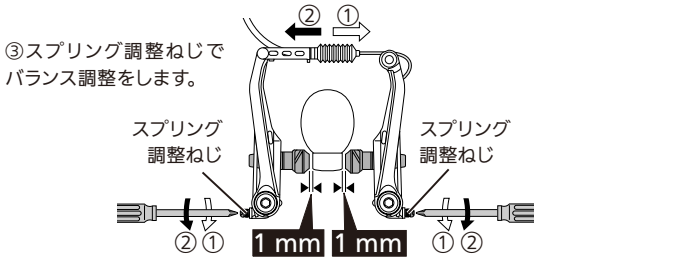
①ブロックをリムに押し当てた状態で、ブロック固定ナットを締め付けます。このとき、タイヤとブロックのすき間が約 1 mm になるようにしてください。



②ブロッククリアランスの左右合計が 2 mm の状態で、ワイヤ固定ボルトを締め付けます。パワーモジュレーターを前ブレーキに使用します。



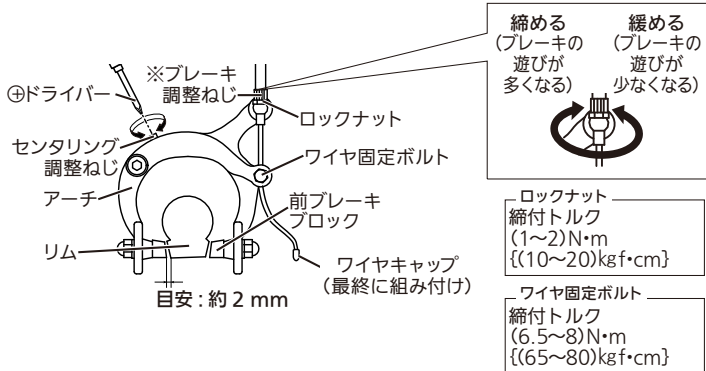
③スプリング調整ねじでバランス調整をします。



④ブレーキレバーをグリップにつくまで約 10 回強く握り、各部に異常がないことと、ブロッククリアランスを再確認してください。

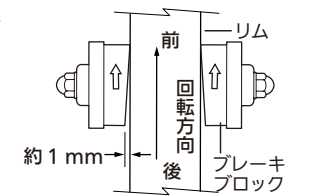
＜キャリパーブレーキの場合＞

- ①アーチを握った状態で、ワイヤをワイヤ固定ボルトに固定してください。
- ②ロックナットを緩める。
- ③ブレーキ調整ねじを回す。
- ④センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックの隙間が左右均等になるように調整する。
- ⑤走行してブレーキの利きを確認する。
- ⑥ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。



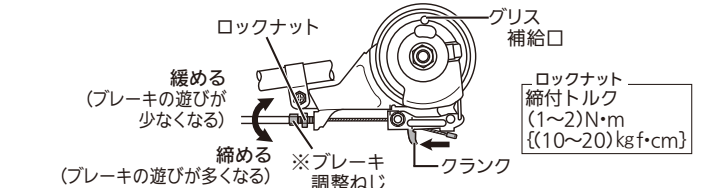
●ブレーキブロックについて

○ブレーキブロックに方向性があります。ブレーキを上側から見て、矢印を進行方向に合わせてください。ブレーキブロックがテーパー状になっており、後側に約 1 mm の隙間ができ、異音防止の効果があります。



●ローラーブレーキの調整

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める。
- ②クランクを押しながら、ブレーキ調整ねじを回す。
- ③走行してブレーキの利きを確認する。
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。



お願い

- 確実な制動力を得るために、通常約 1 ~ 2 年に 1 回程度はローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
- ブレーキをかけた場合、音鳴りがしたり、ブレーキの利きが異常に強すぎたりしたとき、ブレーキグリスの不足が考えられます。ローラーブレーキ専用グリス(NBP002)を補給してください。

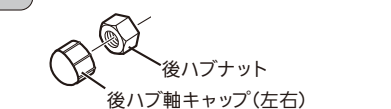
●前後ブレーキのブレーキワイヤ末端処理

○安全のためワイヤ末端にはワイヤキャップをカシメてください。

■後ハブ軸キャップの組み付け

＜Jコンセプト、ペロスター＞

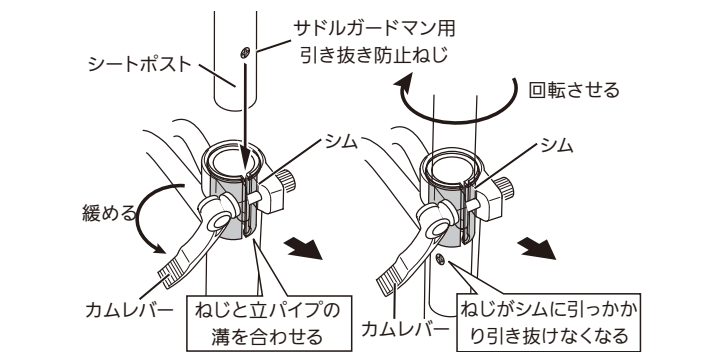
○後ハブ軸キャップを装着してください。



■サドル(シートポスト) の組み付け・調整

＜サドルガードマンの場合＞

- ①シートポストの引き抜き防止ねじを割り溝に合わせて挿入します。
- ②シートポストを回転させます。
- ③乗車姿勢でサドル高を合わせ、カムレバーで固定してください。



パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町 13 番 13 号

© Panasonic Cycle Technology Co., Ltd. 2019-2022

NYK2206 D0619-4092